

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 99 2014年12月20日発行
郵便振替口座「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

今年もあたたかいご支援をありがとうございました。
来年もどうぞよろしくお願いいたします。



ウクライナの子どものための保養（4-5頁）

4月に来日したインナ
さん、娘のマリアンナ
ちゃんと保養に(16頁)



★事務局移転のお知らせ

2015年2月15日より移転します。
(詳しくは2頁をご覧ください)

★ニュースレターはHPでもご覧いただけます。
郵送不要の方はご連絡くださいますようお願い
いたします。

2015 チェルノブイリ救援カレンダー好評販売中！

収益はチェルノブイリと福島の子どものために
使われます。どうぞご協力をお願いします。



～事務局移転のお知らせ～

前号でお知らせしましたように、子ども基金の募金は減少しており、これまでより支援活動の規模を縮小せざるを得ない状況です。しかし支援を必要としている子どもがいる限り、少しでも息の長い活動を続けていきたいと思っています。

事務経費削減のため事務局を移転します。新たな事務局は、現在空き家になっている個人の家をお借りします。その建物の維持費や固定資産税相当分だけ負担することになり、現在の家賃の1/4以下となります。

2015年2月15日より下記へ移転

〒177-0035

東京都練馬区南田中 2-7-7

TEL : 03-6767-8808

E-mail ※変更の予定。HPで告知し、メールアドレスをご連絡いただいている方にはメールでお知らせします。

ニュースレター／郵送不要の場合はご連絡をお願いします

・これまではニュースレターを年4回発行してきましたが、2015年からは年3回発行に変更します。**(2015年：3・6・10月)**
 ・これまで郵送で受け取っているみなさまの中で、ニュースレターはホームページでご覧になり、郵送は不要という方がいらっしゃるようでしたら、お手数ですが事務局までお知らせください。その際、E-mail アドレスもお知らせいただければ、ニュースレター発行や、その他事務局からの連絡事項はメールでご案内いたします。

＊＊お振り込み方法についてのご案内＊＊

・同封の振込用紙での送金に限らず、**郵便局の口座間、また他金融機関の口座から子ども基金のゆうちょ銀行口座へもご送金いただけます。**詳細は16頁をご覧ください。それぞれの手数料についてはご確認ください。
 ・振込用紙以外の方法でご送金いただく場合には、メール、電話などで、お名前、金額、ご寄付の内容（里子支援金、保養費など）をご連絡いただくと大変助かります。お手数で恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

【2014年の支援活動】（2014年1年間の会計報告は、次号に掲載いたします。）

支援の内訳	
ウクライナ	医薬品代：内分泌研究所 ※
	運営費：「チェルノブイリ子どもたちの生存」
	汚染地域の病気の子どものための特別保養費
	里子支援・緊急支援
ベラルーシ	医薬品代：「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」、
	運営費：「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」
	汚染地域の子どもの年間保養費の一部：「希望」
	甲状腺、その他の腫瘍病の子どものための特別保養費
	チェルノブイリ被害者家族のための保養費
	里子支援・緊急支援

※内分泌研究所（ウクライナ）：甲状腺がんの患者（チェルノブイリ事故当時0～18歳）へ医薬品を支援。2013年11月末から2014年11月18日の間、放射性ヨウ素治療を受けた患者264人に甲状腺ホルモン剤、106人にカルシウム剤が手渡されました。これまでは毎年秋以降、医薬品の在庫数の報告を受けてから購入費用を送金してきました。今年は資金難により年内の送金は見送り、来年の募金状況により支援金額を決定します。

【2015 年の支援予定】

子ども基金の財政は厳しい状態が続いていますが、来年の支援を下記のように決定しました。「子どもの特別保養」(ベラルーシ・ウクライナ)は継続しますが、今年まで7年間続いた「甲状腺の手術を受けた親とその子どもの特別保養」(ベラルーシ)は、残念ながら来年は見送ることに決定しました。保養は実施できませんが、支援の必要な家族には、慈善団体を通じて医薬品などが受け取れるようになっています。支援の縮小について、各団体・病院にこちらの事情を説明しました。経費節減のために移転することなども伝えました。

来年も、できる限りの支援を続けてまいります。
みなさまのご支援ご協力を、引き続きよろしくお願いいたします。



* ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

＜ベラルーシ＞

◆児童健康回復センター「希望」:

・放射能汚染地域に暮らしている子どもたちの年間保養費用の一部を支援します(前年より減額)。

・「腫瘍病の子どものための特別保養」を実施します。

※2014 年までゴメリ市・「希望」間の往復をチャーターバスで行っていたところを、ゴメリ駅・ミンスク駅間を列車、ミンスク駅・「希望」間をバスで往復することにより、交通費を低く抑えます。

・「甲状腺の手術を受けた親とその子どもの特別保養」は実施を見送ります。

◆慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」:

里子・奨学生への支援を継続します。「希望」で開催する子どもの保養費用、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します(前年より減額)。



◆慈善団体「チェルノブイリのサイン」(団体は解散しましたが、元スタッフが里子と子ども基金の仲立ちをしています): 里子支援を継続します。スタッフ 1 名分(前年までは 2 名分)の給料を支援します。

＜ウクライナ＞

◆慈善団体「チェルノブイリ・子どもたちの生存」:

里子支援を継続します。スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します(前年より減額)。

◆「汚染地域に住む病気の子どものための特別保養」: ウクライナ国内のサナトリウムで実施します。

◆病院「内分泌研究所」: 甲状腺の病気の患者の医薬品代を支援します(前年より減額の予定)。

~~~~~

※子ども基金が支援したものは、現地団体・病院が物品等を購入後に領収書を、また里子支援金に関しては受領証を提出してもらいます。子ども基金は、書類上のチェックと、事務局スタッフが現地を訪問した際に、現物の確認を行っています。



## 汚染地域の子どもたちのための特別保養

2014年夏 ウクライナ

ウクライナ情勢が緊迫する中、毎年夏に行っている保養の開催が心配されました。昨年までは、クリミア・エフパトリヤの国立子どもサナトリウムで実施していました。今年も同サナトリウムを予定していましたが、政情の影響で急遽、別のサナトリウムに変更しました。

■場所：サナトリウム「ゴールナヤ・ティサ」  
ウクライナ ザカルパチア州ラホフ地区クワスイ村（2009年に特別保養のために利用した。）

■期間：2014年8月24日～9月7日（14日間）

■参加者：子ども16人（8歳～13歳）、引率者4人。ジトーミル州ナロジチ地区・オブルチ地区の子どもたち。鉄欠乏症貧血、腎下垂、慢性扁桃炎などの症状をもつ。

~~~~~  
日本のみなさんのおかげで、私たちは子どもたちをエフパトリヤにある子どもサナトリウムで、何年か保養をさせてきました。今、このサナトリウムは占領された地区にあります。現在のところ、子どもたちの保養のために、一番安全なところはカルパチア地方です。サナトリウム「ゴールナヤ・ティサ」はカルパチアにあります。大変設備の良いサナトリウムで、食事の内容も素晴らしいです。ウクライナの汚染地域の子どもたちがそこで保養をしました。ジトーミル州・ナロジチ市の病院のミシュク・エレナ医師の助言のもと、参加させる子どもを決めました。

サナトリウムでは、子どもたちは健康回復を目的とした治療を受けました。血行を良くするため

のさまざまなシャワー療法、呼吸器官の症状を和らげるための吸入治療、自然の塩を利用した療法（自然塩で作られた壁の部屋で空気を吸い込む）などを受けました。酸素入りの泡飲料（果物の味がついている）も喜んで飲みました。必要な子どもには電気療法も行われました。

子どもたちは毎日、新鮮な空気の下でバレーボールやピオネルボールをしました。夕方はカラオケで歌ったり、ダンスを踊ったりしました。いろいろなところに遠足にも行きました。ブコヴェリ（山岳地方）というところでは、ケーブルカーに乗り大喜びでした。ヤレムチャというところでは、自然保護地区も見学しました。塩の湖や、“ヨーロッパの中心地点”にも行きました。

ウクライナでは、チェルノブイリの子どもたちの保養は法律で義務づけられています。しかし残念ながら、これは実際には実施されていません。今年は政情の問題から、子どもの保養はほとんど行われませんでした。他に、国からの支援というのは、幼稚園に行っている子どもの場合、親には26グリブナ支給され、幼稚園に行っていない場合は、150グリブナ支給されます。学校に通っている子どもの場合には、月末に16グリブナ支給されます。大人の場合には月末に2グリブナです（1ドル=15.75グリブナ/2014年12月12日現在）。

日本のみなさんからのご支援に、心からお礼を申し上げます。ウクライナの子どもたちの問題を理解し、ご支援を続けてくださっているのは、みなさんの他に誰もいません。

現在、ウクライナはとても難しい戦争状態にあります。残念ながら、今こちらではチェルノブイリの問題を口にする人はいません。でも私たちは、みなさんとともに、チェルノブイリの問題を忘れないよう訴え続けていきたいと思っています。

慈善団体「チェルノブイリ・子どもたちの生存」 代表 リュドミラ・ザクレフスカヤ



<子どもたちの感想>

◆僕はサナトリウムがとても気に入りました。いろいろなところへ遠足に行き、塩の湖を見たり、ダンスをしたり、治療を受けたりして過ごしました。とてもよい保養ができました。ありがとうございます。（マクシム 男 11歳／オブルチ地区ジェレフ村）

◆私たちは山を散歩したり、遠足に行ったりしました。自然の風景が美しかったです。サナトリウムでは食事がおいしかったです。いろいろな治療を受けました。スタッフの人たちも親切でした。私は元気になりました。（カリーナ 女 9歳／ナロジチ市）

◆とてもよいサナトリウムでした。治療の中では、シャワーと吸引療法がよかったです。遠足では、特にブコヴェリに行ったのが良かったです。（ニコライ 男 10歳／ナロジチ市）

◆こんなに美しい山の風景を見る機会を下さり、とても感謝しています。丘を登って歩くのはちょっと大変でしたが、登りきったところからの風景は素晴らしかったです。午前中はいろいろな治療を受け、午後はいつもどこかに散歩に行ったり、遠足に行ったりしました。サナトリウムの人たちがみんな親切で優しかったのがよかったです。（スヴェトラナ 女 14歳／オブルチ地区バザール村）

◆素晴らしいサナトリウムでの保養に招待してくれて本当にありがとうございます。ここではたくさんの治療を受けました。塩の部屋の治療のおかげで、私は呼吸が楽になりました。敷地内のコートでバレーボールやサッカーもしました。遠足や、山の散歩も、どれも忘れられません。美しい風景、きれいな空気。もしできたらもう一度ここに来た

いです。日本の皆さん、ありがとうございます。皆さんのご健康と幸福をお祈りします。（アレクサンドラ 女 12歳／ナロジチ市）

<引率者の感想>

保養への支援にとっても感謝しています。サナトリウム「ゴールナヤ・ティサ」は、ユネスコ生物圏資源世界ネットワークに認定されているカルパチア生物圏保護区域内にある、ザカルパチエの最も美しい一角に位置しています。クワスィ村はヨーロッパ大陸のまさに心臓部にあり、海拔560mの高さです。地区の中心地ラホフから14kmの距離にあるチョールナヤ・ティサ川両側に、ヨーロッパの地理的中心から26kmのところに広がっています。ここはカルパチア山脈の鉱泉保養地です。

サナトリウムには、カルパチア山脈での滞在和、健康回復のための保養にとって素晴らしい環境が整えられています。澄んだ山の空気、薬湯浴、パラフィン浴（温熱療法）はチェルノブイリ原発事故による放射線汚染地域で暮らす子どもたちに、一年分のエネルギーを与えてくれました。

連日軍事行動の報告がなされ、ウクライナでは善良な若者たちが命を落としています。基金の皆様と、ウクライナを助けてくれる全ての親切な人々に深くお礼を申し上げます。日本に栄光あれ!!! ウクライナに栄光あれ!!

（ガリーナ・パヴロフスカヤ）

【事務局からのお願い】保養を終え子どもたちは、見違えるように元気になります。来年も汚染地域の子どもの保養が実施できるよう、ぜひみなさまのご支援をお願いいたします。募金はいくらからでも受け付けています。



2014年9月 ベラルーシ 子ども保養センター「希望」 開設 20 周年記念祭



子ども基金が長年支援を続け、毎年夏の病気の子どものたちの保養や、チェルノブイリ被害者家族の保養を行ってきた「希望」が、今年9月で開設20年を迎えました。記念祭は9月26日、27日の2日間にわたって開かれ、「希望」と協力関係にある11か国60団体のうち、7か国35団体から102人が参加。子ども基金もこの記念祭に参加しました。

~~~~~

子ども基金からは、向井（代表理事）、佐々木（事務局長）、清水（監査役）、また広河隆一写真展事務局のボランティア伊藤さん（チェルノブイリ10周年の際、子ども基金がミンスクとゴメリの会議会場で開催した広河隆一写真展開催のボランティアとしても参加）が参加しました。日本からは他に、広河隆一さん（チェルノブイリ子ども基金の設立者、「沖縄・球美の里」代表）、「沖縄・球美の里」の看護師 町田さん、「チェルノブイリの子供を救おう会」（茨城県日立市）代表 久保田護さんとボランティアのみなさんが参加しました。各国の参加者はドイツ、スコットランド、イギリス、アイルランド、オーストリア、イタリアの団体、そしてベラルーシの団体でした。

1日目は、参加者の交歓会、主催者側の挨拶と表彰式、保養中の子どもたちによる施設の案内、植樹祭、子どもたちのスポーツ大会が

行われました。チェルノブイリ子ども基金は、ベラルーシ共和国人道活動局からと、希望から感謝状を授与されました。また、各国団体の中から、特に「希望」のために力を注いだ個人、11人に「希望」から感謝状が授与されました。そのうちの3人が日本人で、広河さん、向井、佐々木に授与されました。参加者たちが植えた苗木の前には、各団体のプレートが立てられました。2日目の記念式典では、各団体の代表者による挨拶があり、子ども基金は代表理事の向井が、また広河さんも挨拶に立ちました（内容は7-8頁）。ほかに、保養中の子どもが作った作品（絵・ぬいぐるみなど）の展示・販売会、子どもたちによるコンサートも行われました。各国参加者たちも歌や踊りを披露しました。私たち日本人グループは「ふるさと」を唄い、大きな拍手を浴びました。おとも子どもも楽しめる催しでし



滞在中の子どもたち



表彰式の様子（向って左端がマクシンスキー所長、2人おいて広河さん、1人おいて向井、佐々木）

た。保養に来ている子どもたちがセンター内の案内役を務めたり、子どもたちのグループとの交流会もあったりと、盛りだくさんの 2 日間でした。この記念祭の様子は、ベラルーシ国営テレビでも放映されました。

表彰状

チェルノブイリ子ども基金 殿  
チェルノブイリ原発事故被災地域に居住する  
児童・青少年の健康維持・増進に向けた人道的  
分野での永年の成果を表彰いたします。  
ベラルーシ共和国大統領総務府人道活動局  
局長 A. V. コリャダ 2014 年

表彰状

チェルノブイリ子ども基金 殿  
実り多い共同作業により、チェルノブイリ原発  
事故被災児童のため、ベラルーシ共和国におい  
て他に例をみない保養施設を創設し、児童セン  
ター「希望」設立と発展に多大な貢献をしたこ  
とを表彰いたします。  
ベラルーシ共和国の児童の健康維持・増進へ  
のご尽力に深い感謝の意を込めて  
児童リハビリ・保養センター「希望」  
所長 V. G. マクシンスキー 2014 年

< 広河さん、向井、佐々木それぞれに贈られた  
感謝状 >

児童センター「希望」設立と発展への多大な貢  
献、「希望」の活動への真心のこもった支援を  
表彰いたします。  
ベラルーシ共和国の児童の健康維持・増進へ  
のご尽力に深い感謝の意を込めて  
児童リハビリ・保養センター「希望」  
所長 V. G. マクシンスキー 2014 年

ならない。子どもたちの健康はとても大切で  
あり、また、国の将来を担う子どもにとって  
教育は重要です。だから、学校形式のサナト  
リウムが必要なのです」と、熱く語られた言  
葉が心に残っています。そして、その言葉ど  
おり、子どもたちにとって「希望」は理想的  
なセンターとして、20 年間存在してきました。  
所長のマクシンスキーさんはじめ、すべての  
スタッフのみなさまに心より敬意を表し、お  
祝いを述べたいと思います。

1994 年の開校式るとき、私は日本から一人  
で参加しました。2004 年の 10 周年るとき、チ  
ェルノブイリ子ども基金のスタッフ佐々木さ  
んと共に参加しました。そして、今日再びこ  
こに、子ども基金や日本の仲間と共に大勢で  
参加できたことを心よりうれしく思っていま  
す。私たちは、海外の支援者のみなさまと共  
に「希望」を支え続けてきたことを誇りに思  
います。ベラルーシの子どもたちにとってこ  
のセンターの役割は重要です。私たちは今後  
もできるだけ「希望」とベラルーシの子ども  
たちの支援を行いたいと思います。

ご存じのように、日本の福島は危険な状  
態が続いています。放出されている放射能に  
よる影響も心配です。いま私たちには日本の  
子どもたちの健康を守ることも大切です。日  
本も「希望」のような保養施設づくりをめざ  
します。そのためには「希望」の経験が必要  
です。子どもたちの将来のために、お互いに  
経験や情報を交換しながら、ともに活動を続  
けていきたいと願っています。「希望」の、今  
後のご成功、ご発展をお祈りします。さらに、  
本日お集まりの皆様のご健康とお幸せ、事業  
のご成功をお祈りします。

~~~~~  
「チェルノブイリ子ども基金」

代表理事 向井雪子

チェルノブイリ子ども基金を代表して、「希
望」開設 20 周年のお祝いを申し上げます。

「希望」がオープンする前年、チェルノブイ
リ子ども基金代表だった広河隆一さんと私は
ペトリアエフ教授のところを訪ねました。「私
たちは子どもたちを放射能から守らなければ

「沖縄・球美の里」代表 広河隆一

私はチェルノブイリの子どもたちを助けることに関われたことを誇りに思っています。私たちは日本でお金を集めて、薬を集めました。本当に困難だったことは信頼できるパートナーに出会うことでした。最後に私たちは「希望」に出会い、マキシスキーさんに出会いました。これは私たちにとって幸せなことでした。私たちは救援組織をたちあげましたけれど、本当に子どもたちにとって何をしなければいけないのか、ここで勉強しました。

特に甲状腺の病気になった子どもたちに何が必要か、いろいろ勉強しました。甲状腺がんで亡くなった子どもに会いましたし、白血病で亡くなった子どもたちにも会いました。私たちは医療機器や医薬品を日本から運びましたけれど、ときには無力感におそわれました。そうした時代の中であって、「希望」は文字通り希望でした。

私はまさか、ベラルーシで学んだことがチェルノブイリ事故から 25 年も経って、福島の子どもを助けるために役に立つとは思っていませんでした。私たちは「希望」を支援したおかげで、日本で起こった大災害に直面した後、子どもにとって、すぐに何をすべきかわかったのです。「希望」はベラルーシだけでなく今の日本の子どもたちも助けています。

福島では今は 100 人を超す小児甲状腺がんが現れています。政府や専門家はそれが原発事故のせいだとは認めていません。ちょうど 1991 年に IAEA の調査団が、チェルノブイリでは小児甲状腺がんはいない、と断定したことと同じことが日本でも起きています。私はここで、ベラルーシやウクライナの人たちに謝らなければ

はいけません。この IAEA の調査団の代表は日本の広島 of 学者でした。その後、彼の弟子が現在、福島の子どもたちの健康の責任者になっています。福島の子どもたちにとって今、どんなに大変な状態かわかっていただけたと思います。ただ、私たちが行ってきた救援のおかげで、私は福島 of 甲状腺がんの多発が原発事故のせいだと確信しています。しかも、来年になったら、病気はもっと増え、パニックが起こると信じています。チェルノブイリの 4 年目と同じです。

「希望」が 20 周年を迎えたということは、「希望」が子どもたちを守るために 20 年間闘い続けたということです。放射能の脅威に対して私たちは勝ったわけではありません。しかし敗北してはいません。「希望」で私たちは一つの信念を学びました。私たちは子どもたちを守ることができる、ということです。「希望」は子どもを守る闘いの“砦”です。この闘いは苦しいけど誇らしい闘いであり、その“砦”です。「希望」に子どもたちの笑いの声がひびいているということは私たちが勝利しつつあるということのあかしです。ここに集まった私たちは「希望」を支援してきました。しかし、同時に、「希望」の生徒だと考えています。福島の事故の後、日本でも“砦”が必要になりました。そして「球美の里」を作りました。事故から 8 年目に「希望」が誕生したときと同じように、小さな規模です。福島の子どもたちを守るために私たちは必ず大きくして今の「希望」のようにしてみせます。

世界中にいる「希望」の支援者の人たちには「球美の里」と福島の子どもたちへのご理解をお願いします。

11月22日、文京区民センター（東京都文京区）において「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」共催により、子どもたちの保養と現状の報告会を開催しました。53名のご参加がありました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。報告会の内容は次の通りです。

~~~~~

◆**チェルノブイリの子どもたちの保養（ベラルーシ「希望」）**：佐々木真理（チェルノブイリ子ども基金） 2014年夏に開催した、「病気の子どもたちのための特別保養」の様子を報告。※この保養の報告は子ども基金ニュース2014年9月号に掲載。

◆**「ベラルーシの里子訪問」**：清水玲子（チェルノブイリ子ども基金）※12頁をご覧ください。

◆**福島の子どもたちの保養（沖縄県久米島「沖縄・球美の里」）**：大場真喜子（未来の福島こども基金） 球美の里での生活や、食事、主なプログラムについて、26次・27次保養にボランティアとして参加したときの様子を、スライドを見せながら報告。また、保養者の募集とボランティアの募集についても話しました。（※報告の全文は未来の福島こども基金のwebおよびニュースレターに掲載予定です）

◆**「希望」20周年式典について**：向井雪子（チェルノブイリ子ども基金）※6～8頁をご覧ください。

~~~~~

チェルノブイリについては今後も国際社会の支援が必要です。一方、福島については、まだ3年余が経過したばかりです。これから一層の支援が必要です。



＜参加者の感想＞●報告者の地道な活動がうかがえる内容でした。今後もこのような会があれば足を運びたいと思います。ベラルーシ等当地の国を挙げた取り組みに比べ、日本、そして福島の現状が残念でなりません。（50代男性）●福島の子どもたちの支援の歴史、現状についても知れたのが印象的です。今後も講演会に参加していきます。（40代男性）●長い間の活動に頭が下がります。これからも国の未来をにう子どもたちのために活動されるよう希望します。（60代女性）●福島の子どもたちにも、チェルノブイリの子どもたちと同じように「保養の権利」が保障されるべきだと思います。「希望」建設のために黙々と協力したドイツ人はエライ！（60代男性）●私は茨城から来ましたが、関東の子ども達にも球美の里が利用できるといいなと思います。ただ、まだ危険な場所に住み続けている子どもたちがたくさんいる現状なので、私達は声をあげづらい雰囲気があります。ベラルーシのように国の支援を得るにはどんな働きかけをしたらよいのかと考えてしまいました。（40代女性）●ドイツジャパンのお手伝いを始めてから、たくさんの事を学び、チェルノブイリや福島の子ども達の状況をもっと知りたいと思い今回伺いました。今後何かしらのお手伝いをして行ければと考えています。（40代男性）●現地での具体的なお話が聞けて良かったです。継続して活動されている皆様に頭が下がる思いです。ありがとうございました。（50代女性）●チェルノブイリの現状は初めて知ったので、とても興味深かったです。球美の里での心理カウンセリングが充実することを期待しています。（30代女性）

2014 年 9 月の「希望」20 周年参加者と共に訪問した病院、家族の様子をご紹介します。

~~~~~

<ゴメリ市中央小児病院>

2011 年に、ゴメリ市中央小児病院・第 3 分院に支援した心電図測定機は、現在、ゴメリ市中央小児病院で使われています。第 3 分院所長のイジャコフスキー医師（写真右）と、慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」代表のボホモワさんと共に訪問しました。「心電図測定機は 1 週間で 5~6 人、年間で 200 人の患者が使っている。心臓に問題のある子どもが多いので、この測定機器は大変役立っている。以前は甲状腺の病気が多かったが、今は目の病気や大脳小児麻痺など。子どもの免疫力が下がると風邪が長引いたりして他の病気にもかかりやすい。我々が



日々接している患者の状況と、上の人たちが言っていることは違う。白内障、子どもの糖尿病、脳腫瘍も多いが、このようなことは教授たちの論文には出てこない。“セシウムの半減期は 30 年だから、もうきれいになった”などと言えない。ウランなどもっと長い。何か勘違いをしている。まだまだ何も終わっていない。汚染地は住めない状態にしなければいけない」

ピンチュク（ゴメリ市小児病院・第 1~6 分院の統括所長）（写真左）：「この地区に新しい住宅がどんどん建設され、住民が急激に増え、病院が不足していた。住民は町の中心

まで通わなければならなかった。そこで、ゴメリ市内の他の小児病院の中心となる新しい病院の必要性を訴え、建設された」所長は準備中のどの部屋も、扉の開いている部屋は全部見せてくれました。隣に成人用の病院も建設中でした。

この地区には、以前「困難」の団体に所属していた子ども、現在所属している子どもが多く住んでおり、里子も多く住んでいます。医師たちとの話の中で、今年 7 月から里親支援が始まったばかりの 9 歳の女の子（脳腫瘍を患っていた）が、数日前に亡くなっていることがわかりました。ボホモワさんもショックを隠せない様子でした。そして、「偉い人たちはみんな本当のことを言わない。地位や職を失うことを恐れているから。何年も後になって、たとえば一線を退いた後で話したりしても、その時にはもう遅い。本当のことは今言ってもらわなければ」と話しました。



~~~~~

<サーシャ> 2010 年救援カレンダーの表紙と、ポストカード（広河隆一撮影：6 枚

組 500 円）にも彼女の

写真が使われている

（写真上）。5 歳の時、

鼻咽頭の筋肉腫が発見

され手術・化学療法を

受けた。現在 16 歳、今

年 9 月からゴメリ市の

芸術カレッジに通って

いる。ドーブルシ市の

自宅からの交通費は障害者のため無料。これから何を専門に学ぶかを決めるが、今のところは絵を習いたいと思っている。デザインの仕事をしたいそうだ。現在、里親支援を受けている。

＜イリーナ＞ 今年（2014 年）の救援カレンダー表紙は、彼女と娘の写真。現在 31 歳。ゴメリ地区ドーブルシ村で夫、娘、息子と 4 人暮らし。両親も近くに住んでいる。娘が通っている村の小学校で事務員をしている。原因不明の急激な脱毛が気になりだと言う。庭にりんご、ぶどう、ベリーの木と小さい菜園があり、鶏、ウサギも飼っている。これがなければ生活ができないという。半地下の保存倉庫には、野菜や果物の瓶詰がびっしり並んでいた。「収穫した野菜をイーラがみんなこうして保存しています」と夫ヴォーヴァは誇らしげだった。イリーナの母親。「娘の病気を知った時は本当にショックだった。ポホモワさんのところで泣いていたら、「泣いている場合じゃないのよ！」と叱責された。そのときはなんてひどいと思ったけれど、彼女が正しいと今はよくわかる。泣いていたら子どもを救えなかった。彼女にはどれだけ助けてもらったか」思い出して目に涙をためた。



＜ユーリヤ＞ ゴメリ市。21 歳。9 歳で脳腫瘍の手術を受けた。里親支援を受けている。大学での勉強は大変だが、充実した学生生活を送っていることが、生き

生きと話す様子から伝わってきた。母親の話（ユーリヤが部屋を出て行ったのを見計らって話し始めた）。「成長ホルモン不足の問題がありましたが、1 年前からやっと生理が始まり、少し背も伸びてきました。でも甲状腺に問題があり、ホルモン剤を飲んでいる。発病（手術）からもう 12 年も経っているけれど今も影響がある」弟も体が弱く、2 日幼稚園に行くと 2 週間休むような状態。母親と弟はサナトリウムへ 18 日間の保養に行き、帰ってきたら、今度はユーリヤの検査に行くことになっている。

＜オーリヤ＞ 慈善団体代表ポホモワさんの娘。31 歳。2012 年 4 月、子ども基金の招きで来日し、甲状腺手術後の自分の人生について講演をした。昨年夏に息子コーリヤを出産後、実家で暮らしていたが、やっとアパートのリフォームが終わり、間もなく夫と 3 人で暮らす予定。息子はひどいアレルギーがあったり、すぐに熱を出したりと体が弱い。私たちが会った時もコーリヤは熱を出しているときだった。オーリヤは、「息子は私にとって一番の幸せ！」と目を輝かせていた。



←（今年の夏に撮影したという写真を送ってきてくれた。）



里親のページ

10月1日、念願かなって里子ナースチャに会って来ました。母親ナターシャはとても痩せていましたが、写真で見るとより若々しく元気そうで安心しましたし、ナースチャが大きくなり、思ったより身体もしっかりしていてびっくりしました。家族はミンスク市のアパートで父親セルゲイと3人で暮らしています。支援を始めたのはナースチャが2歳の時でした。当時この辺りは新しいアパートが建設中だったそうですが、今は街がさらに外に向かって広がっていました。

ナースチャはいくつもの病院を巡り、1歳半の時に「小児大脳マヒ」と診断されました。この時の医師からは「こういう病気の子どもの親は離婚率が高い」とか「高額な薬代がかかる」など悲観的な事を言われました、妻からそれを聞いたセルゲイは「君と別れる事があってもナースチャを手離すことはないよ」と冗談交じりに言ったそうです。この言葉どおり、運送関係で働くセルゲイの収入と、ナターシャ(無期限チェルノブイリ障害認定者)・ナースチャ(2016年までの障害認定者)の年金の中から、年金の倍近い額の薬・ビタミン剤とその他に特別な食品・おむつの費用を賄い、残りで厳しい生活をしています。アパートには熱帯魚の水槽があり、繁殖させて生活費の足しとしていました。医師からは「この子は何にも出来るようにはならない」と言われたナースチャですが、ドーマン法のリハビリなどをして、7歳の今は少し歩けるようになり、リンゴ・おせんべいは自分で持って食べられるようにまでなりました。



した。ナースチャは肝臓・胃も弱く、食べ物はグルテン・カゼイン・添加物・着色料の入っていない物を選ぶなど特に注意が必要です。薬・ビタミン剤に加え、これらは米国から取り寄せたりもしているそうです。こうした両親の献身的な看護により毎晩起こしていた発作も治まり、風邪などの回復も早くなりました。また、水を飲みたい時コップやペットボトルを持ったり、食べたい時はお皿に手を伸ばすなど、自分のしたい事を表現できるようにもなりました。身の回りの物に興味を持ち、「袋の中の物を出してみたり、キッチン扉を開けて床いっぱいに広げたり、家は片付かないけれど」と、ナターシャは娘の成長を嬉しそうに

話しました。ナターシャが自分の時間を持てるのは、週3回訪問してくれる先生がナースチャと過ごしている時だけです。普段ナースチャを少しの間1人にしなくてはいけない時は、ベビーサークルの中で待たせます。

ゆっくり成長するナースチャに長く寄り添い支援する事しか私にはできません。セルゲイがしっかり働いて家族を守り、ナターシャは自分の身体も大事にし、ナースチャの成長に希望を持って生活して欲しいと願っています。(＊ナターシャは10歳の時甲状腺の手術を受け、今も薬を飲み続けています。)

(清水 玲子)

~~~~~  
2014年9月の「希望」設立20周年祭に参加したメンバー4人、それぞれの里子(過去に支援した里子も含む)に会いました。(撮影:佐々木真理)



## 販売品のご案内

2015 年度カレンダーを販売中です。他にも下記の品物を販売しています。クリスマスや新年のプレゼントなどにもぜひご利用下さい。

**2015 年救援カレンダー** 1,100 円

【カレンダーに掲載されている家族の近況】

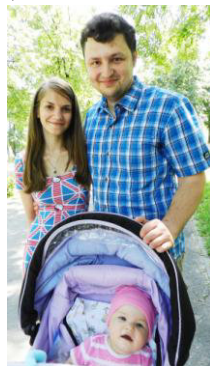
### \*表紙（ナターシャと二人の息子）

「最近風邪をひいて熱と咳が続きました。今はよくなりました。内分泌医のところに甲状腺の検査に行くとき、二人の息子も一緒に連れて行き検査してもらいました（彼らの検査は有料です）。検査結果はあまりよくありませんでした。医師の説明では、彼らの甲状腺の働きはあまりよくないため、3ヶ月間チロキシン（甲状腺ホルモン剤）を飲んでから、再度検査を受けるように、とのことでした。ですから、今は私もマルヴェイもセルゲイも、食事の30分前にチロキシンを飲んでいるのです。息子たちはきっと大丈夫だとは思いますが、やはり心配です」（2014.10.15）

### \*3月小窓写真（サーシャと妻と娘）

「娘のダーシャは10月2日に1歳の誕生日を迎え、妻と3人で祝いました。自分は12月に、ドイツに放射性ヨウ素治療に行く予定です。そのことが少し不安です」（2014.10.）※サーシャは肺に転移があったため、今まで何度も放射性ヨウ素治療を受けてきた。

（写真下：1歳になった娘のダーシャ）



**ポストカード「いのちの輝き」**（広河隆一撮影のウクライナ・ベラルーシの子どもたちの写真）6枚組 500 円。10 セット以上 1 割引。

### 書籍

★「**ニーナ先生と子どもたち**」1,300 円

広河隆一著・写真（小学館）“日本語版”  
チェルノブイリ事故により放射線汚染地域となった学校のニーナ先生、病気の子どもたち、自然界の異変、人が住めなくなった村など、被災地の様子を、写真を通して伝えています。

★「**写真記録 チェルノブイリ消えた 458 の村**」

8,000 円 広河隆一 著（日本図書センター）  
放射能汚染により人の住むことができなくなってしまった村々の貴重な写真記録集。

### CD

★CD「**消えた故郷・生命の輝き2**」ナターシャ・

グジー（子ども基金 制作）2,000 円

チェルノブイリ15周年救援CDアルバム

★CD「**セルツェ**」ナターシャ・グジー（音楽セン

ター）2,500 円

### マトリョーシカの小物

★マグネット：縦6cmx 横4cm ★キーホルダー

：縦4.5cmx 横2.7cm（人形本体の大きさ）

各1個 500 円。色・柄はお任せください。

~~~~~

【ご注文方法】①住所 ②電話番号 ③氏名

④希望品名と数量を明記の上、郵便・FAX・

Eメールでお申し込みください。子ども基金のホームページからもお申し込みいただけます。

【お支払い方法】同封の振込用紙をお使いになるか、16 頁に記載の方法でお振込みください。※別途送料がかかります。（物販情報は子ども基金のホームページ“最新情報欄”にも一部写真入りで紹介しています。）



人はなぜ病気になるのか <その2>

4. 病気は身体の変調、不調

◆病気は、外から入り込んだものではなく、自分自身の身体の変調です。変調というのはピアノやギターの調律がはずれた状態で、同じピアノでも良い音が出ない状態です。良い音が出ている時が健康なのです。例えば、かぜでも、外から入ってきたウイルスや細菌と戦って、身体の変調を起こして熱が出たり、咳やのどや身体の痛みやのどが腫れたりしているのです。だから、治ると自然に熱が下がったり、咳や痛みや腫れがとれていくのです。

◆だから病気は、自分自身がなっている変調した「状態」なのです。病気を嫌わないで下さい。病気を嫌うことは、自分の心が、自分自身の病気になっている身体の状態、つまり自分の身体を嫌うことになり、心の奥底（潜在意識の中）で、抗争（葛藤）を起こして、病気が良くなりません。病気を認めて、病気と上手に付き合ってください。良くなるように自分の身体をなだめて、「良くなる、良くなる、だんだん良くなる」と自己暗示をかけて下さい。きっとあなたの身体の病気はよくなっていくでしょう。子どもは親が暗示をかけて下さい。よく病院に来ると、子どもが元気になるのは、ここに来ると良くなるとの暗示効果です。

5. 不安は病気のもと

◆また不安になると、病気になったり、病気が悪くなったりします。不安になると「もっと悪くなるのではないか」とか「もっと苦しくなるのではないか」と思ってしまいます。それが自己暗示になって、あなたの身体はだんだん悪くなります。不安だと良くなれないのですから、不安を打ち消しましょう。その為に、薬を飲んだり、医師にかかったりするのです。子どもは、お薬を飲ませて、「さあこれで良くなるよ」と言って下さい。それでよくなるのです。薬の効果と暗示の相乗効果です。それで良くなれない場合は、それが効かない何かストレスになっていることが、子どもにあるのです。それを探して、なくすようにしましょう。

◆病気に神経質な人ほど、病気になりやすいのです。日本人は昔から病気に神経質です。挨拶の言葉には病気に関連する言葉が多いです。最近のゲノムの研究では、日本人の93%、白人の67%が神経質になる遺伝子配列を持っていると言います。しかし、それが発現されるのは環境によります。だから、くよくよしない人が長生きするのです。長寿の人に「その秘訣は何ですか」と聞くと、大抵「くよくよしないことです」と言います。不安をかかえてはいけなから、不安なら医者にかかり、不安をなくしましょう。良い医師は、安心をさせてくれます。医者は

安心を売る職業ですから、不安を増やするような医師は避けましょう。また、親は子どもを不安にさせるような言葉を話さないようにしましょう。「かぜをひくから」、「注射をされるよ」、「病気が悪くなるよ」などなど。

子どもを脅かして、言うことをきかせようとしてはいけません。ほめて言うことをきかせましょう。子どもはほめられたいから、親の言うことをきくようになります。大人も同じです。大人同士でも、感謝の気持ちを表す「ありがとう」を言い合ひましょう。

6. 病気と上手に付き合ひましょう

◆一病息災になりましょう。

前号の川の話に戻ります。堤防の一ヶ所から水があふれて、川の水位が下がると、他の場所から水があふれません。それと同様に、一つの病気を持っていることによって、他の病気になる可能性が減ります。これを一病息災と言います。病気とうまく付き合ひ、なだめすかして、病気と仲良くして下さい。何とかして病気を治すと、また別の病気になる事がありますから。これは慢性の病気の話で、急性の病気は別です。

◆人生を楽しみましょう。たった一度の人生ですから、楽しくなくてはなりません。楽しい人生を送ることによって、病気は逃げていきます。楽しい事を考え、思い描き、いつも、どこでも、楽しいことを考えながら、勉強したり、仕事をしたりしましょう。楽しくしていれば、病気は良くなります。

7. 病原環境論

◆病原環境説は、ヒポクラテスに始まると言われていいます。ヒポクラテスは、病気をその「人」の状態として捉え、病気の原因を、気候の変化と不適正な食事、その他外界の激変にあるとしました。その後、ドイツの病理学者、衛生学者で政治家（進歩党）のウィルヒョウによって再興され、さらにロックフェラー大学環境医学教授デュボスによってヒポクラテスの復権が提唱されました。1970年代の国連環境委員会のアドバイザー委員長をしたデュボスでも、この説を臨床医に広められなかったのです。パブロフの条件反射を進めて、人はどんな環境に置かれたらどう反応するかの研究に進むべきだったのです。この説を支持しているのは、基礎医学者と精神科医に多いのです。アメリカの精神科医を中心に、精神神経免疫学や、さらに精神神経免疫内分泌学なども提唱され、動物実験もされ実証されていますが、これらはすべて病原環境説に含まれます。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

ブログ：<http://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941>

♥ 募金団体名一覧 ♥

~~~~~\*

【11月】日本基督教団事務局・出版  
局有志／現代を問う会／恵泉女学園  
中学・高等学校 文化祭委員会／民宿  
夢民村／トランスフェリックマネジ  
メント

つて影響を及ぼし続けるのだと痛感します。事故による苦しみや不安の中にある方々へ思いを寄せ続け、そうし続けるためにも、新しい年も自分も頑張ろうと思います。(東京都Mさん)◆毎年購入しています。もう10年以上でしょうか。今年も楽しみです。(島根県Tさん)◆原発を止めなければ、未来はないと考えています。私もできることをやりたいと思います。(静岡県Mさん)◆あのフクシマの人災から3年8か月何も変わらない、そしてフクシマを忘れさせようとする人達に怒りを禁じえません。福島の人達に何が出来るのかと自問自答して居ります。(京都府Hさん)◆地元の新聞でこのカレンダーのことを知りました。原発事故で被災した子どもたちがたくさん笑顔になってください。心から願っています。(静岡県Wさん)◆今、ホットスポットに住んでいますが、目に見えない敵は忘れがちです。しかし、確実に我々の健康に何らかの影響を与えていると思います。関心を持ち続けるために購入します。(千葉県Oさん)◆新聞の文化面でこのカレンダーのことを知りました。どうしてこのような事故が起きてしまったのか。今後、子供たちの安全や安心して生活できる環境を私たちが協力して作り上げていかなければ。その気持ちを忘れずにいるためにも、このカレンダーの存在は大変大切なものだと思います。(東京都Yさん)

★年末年始のお休み 2014.12.27～2015.1.4

★2015年4月チェルノブイリ救援イベント

4月24日(金)午後7時より文京シビック小ホールにてチェルノブイリ救援イベントを予定しています。詳細は次号のニュースレターとHPでご案内します。

★ボランティア募集

ニュース発送作業:年3回/2015年3・6・10月

次回:3/28(土)午後1時～4時頃まで

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ10階)

※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。【問い】平日午前10時～午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 3-5228-2680(注:2015年2月15日より電話番号変更(この頁の下をご覧ください))

※事務局での平日・土曜日のボランティア作業は不定期に行っています。前もってお問い合わせください。

★今年4月に来日講演をしたインナさんの近況

(表紙写真)今年は運よくチェルノブイリ被災者のための無料保養チケットをもらえたので、私とマリアンナは、トルスカヴェツ(ウクライナ西部)のサナトリウムへ3週間保養に行きました。(法律では本当は年に一度行けるはずですが、残念ながら実際には2年に一度くらいです。それさえも色々な所に出かけて行って何度も申請しなければなりません。)向こうでマリアンナは腎臓の治療を受けました。私たちは治療効果のあるミネラル水を飲んだり、たくさん散歩をしたりしました。ほかにも子どもがたくさん保養に来ていたので、マリアンナはとても楽しそうでした。



(2014.10. 27)

★前号(2014年9月号)お詫びと訂正

p.10「家族訪問 L・サーシャ」の中に間違いがありました。お詫びして訂正いたします。◎姉のナターシャ(2005年生まれ)→正しくは(1995年生まれ)◎もう一人姉(2007年生まれ)→正しくは(1997年生まれ)

＜お振り込み方法についてご案内＞

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。今後は振込用紙による送金に限らず、以下のご都合のよい方法もご利用ください(2頁もご覧ください)。

(1)郵便局の口座をお持ちの方:子ども基金の郵便口座へ直接お振り込み

郵便振替口座 00160-4-98316

口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2)他金融機関の口座から、子ども基金のゆうちょ銀行口座へのお振り込み

店番 019

店名 〇一九店(ゼロイチキュー店)

預金種目 当座 0098316

受取人名 チェルノブイリ子ども基金

\*\*\*\*\*

同封の振込用紙と領収証につきまして

みなさまにお知らせとお願いです。

\*\*\*\*\*

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

払込取扱票のお名前・ご住所は楷書でご記入ください  
郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際はお申し出ください。

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 2015年より年3回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

E-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp

ウェブサイト= [http://homepage2.nifty.com/chernobyl\\_children/index.html](http://homepage2.nifty.com/chernobyl_children/index.html)

事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

※2015.2.15より下記へ移転します。

〒177-0035 東京都練馬区南田中2-7-7 Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail アドレスも変更します。新アドレスは2/15以降HPで告知します。

(※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。)